

Die Zauberflöte



Wolfgang Amadeus Mozart

Opera

全一幕

苗木

W.A.MOZART

指揮 ■ 古谷誠一 演出 ■ 植田忠男 管弦楽 ■ 倉敷室内管弦楽団 出演 ■ 二期会中四国支部会員

'81 12月13日(日)PM2:00 倉敷市民会館

■主催/二期会中四国支部
 ■後援/岡山県教育委員会 倉敷市教育委員会 NHK岡山放送局 山陽新聞社 朝日新聞岡山支局
 毎日新聞岡山支局 読売新聞岡山支局 山陽放送 岡山放送 西日本放送

Wolfgang Amadeus Mozart

魔笛

二期会中四国支部オペラ
56年度岡山県芸術祭参加

全二幕

倉敷市民会館 **12.13** 日 00 PM 2:00 開演

主催 ■ 二期会中四国支部
後援 ■ 岡山県教育委員会・倉敷市教育委員会・NHK岡山放送局
山陽新聞社・朝日新聞岡山支局・毎日新聞岡山支局
読売新聞岡山支局・山陽放送・岡山放送・西日本放送

本日は、皆様御多忙のところ、二期会中四国支部オペラ公演「魔笛」にお越し頂き誠にありがとうございます。会員、準会員に成り代わりまして、一言お礼を申し上げます。二期会中四国支部は、昭和48年24名の会員、準会員により設立され、現在は会員28名、準会員36名、関係ピアニスト8名を含め、72名の世帯で運営しております。

音楽大学を卒業し、尚且つ厳しいオーディションに合格したこれらの声楽家は互いの連携を保ちながら、自己の声楽研究に日々努力しています。

最近の活動は非常に活発でリサイタル、オペラコンサート、恒例になりましたゴールデンコンサート、オペラ公演等を通して、地域社会への文化向上の一端にお役に立っているものと確信致します。これも偏に皆様方の暖かい御支援の賜ものと深く感謝致しております。

本日の「魔笛」は特に東京より指揮者、古谷誠一氏、演出家、植田忠男氏を迎え、地元の偉大なるオーケストラ、倉敷室内管弦楽団との共演を得、この一年間の総結集を見事花開かせてみたいと存じます。

どうぞ最後までごゆっくり御鑑賞頂き、楽しいところは大笑い、演奏が良ければ拍子喝采をお願い致します。

終わりにになりましたが、本公演にあたり、御援助、御協力下さいました関係各位に心からのお礼を申し上げ、御挨拶にかえさせて頂きます。



二期会中四国支部委員長
近藤 安 介

魔笛

- 台 本—Emanuel Schikaneder
- 作 曲—Wolfgang Amadeus Mozart

- 総 監 督—近 藤 安 介
- 指 揮—古 谷 誠 一
- 演 出—植 田 忠 男
- 装 置—和 田 平 介
- 衣 裳—渡 辺 園 子
- 照 明—市 川 滋
- 舞 台 監 督—市 川 一 正
田 和 伸 二
- 合 唱 指 揮—上 月 明
- 練 習 ピ ア ノ—菊 地 桂 子
北 迫 ひとみ
- マ ネー ジ ム ント—井 口 毅
玉 垣 夫 規 子



- ザラストロ—大 原 正 義
- タミーノ—日 高 好 一
- 弁 者—黒 岩 悟
- 僧 侶 I—薦 田 義 明
- 僧 侶 II—石 田 徹
- 夜の女王—川 村 輝 子 (関西二期会)
- パミーナ—平 本 弘 子
- 侍 女 I—梶 川 良 子
- 侍 女 II—古 賀 照 子
- 侍 女 III—虫 明 和 子
- パパゲーノ—秋 山 啓
- パパゲーナ—岡 崎 順 子
- モノスクトス—里 井 宏 次 (関西二期会)
- 童 子 I—高 橋 真 砂 子
- 童 子 II—西 郷 子
- 童 子 III—西 谷 子

- 管 弦 楽—倉 敷 室 内 管 弦 楽 団
- 合 唱—二 期 会 中 四 国 支 部 合 唱 団

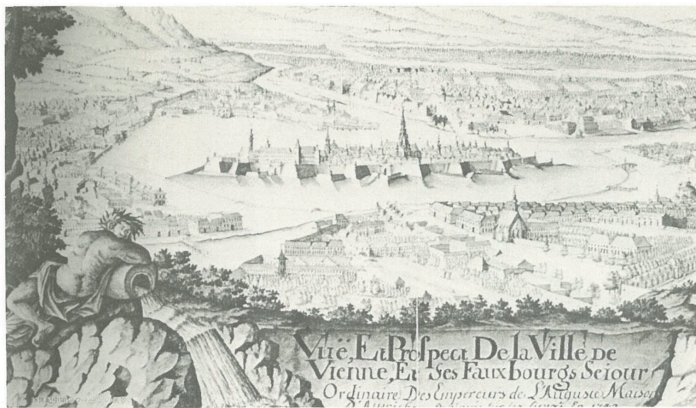
モーツァルトは、ハイデンとならび称されるウィーン古典派の代表的作曲家であり、ハイデンとともに、ウィーン古典派という地域的なわくをこえ、十八世紀の後半を支配した時代様式としての古典派の生成・発展と、そして完成にあずかり、様式の確立にもっとも大きな役割を果たしたが、この2人は、多くの点で、はなはだ対照的な存在である。24歳も年長であり、作曲家として独自の道を歩みはじめたのが比較のおそかったハイデンに対して、モーツァルトは、幼時から神童としての誉れがたかく、すでに5歳になるころから、はやくも創作活動に入りはじめるという早熟さを示したし、ハイデンが十九世紀まで生きのびて、長寿をまっとうしたのにくらべて、モーツァルトは35歳という働きざかりで世を去っている。このような相違は、さらに生活態度にもみられるし、創作活動や作品様式にもあらわれている。モーツァルトの場合、父レオポルトの教育的配慮と育成が大きな意味をもち、資料的にもきわめて幼いころから生涯、作品の両面にわたってたどることができるのも大きな特徴である。最近とくにレオポルトが息子ヴォルフガング・アマデウスに対して与えた影響の再検討が主張されているものも、幼時からの能率的な教育や、企てられた数多くの旅行の真の意義の解明が、モーツァルトの音楽作品の理解に必要不可欠であるばかりでなく、モーツァルトの人間像をあまりなくとらえるためにも、この啓蒙主義の時代に生きた理性的な音楽家であり、教育者としてもすぐれたレオポルトの存在をふかく理解することが要求されるからである。さらに、ザルツブルクという環境も、モーツァルトの音楽的形成に重要な役割を占めている。ここは、独立した大司教領として、オーストリア帝国やドイツの諸侯とはちがった統治形態がとられており、その宮廷には、すぐれた音楽家たちが仕えていた。エーペルレーン、アードルグッサー(Anton Cajetan Adlgasser)、あるいはヨーゼフ・ハイデンの弟、ミヒャエルなどが、その代表的な存在であり、さらに父レオポルトもこれに加えることができるが、各地の前古典派の動きと平行して、おなじように活発な動きを示していた。モーツァルトは、こうした環境に生まれながら幼児時からの



1756・1・27ザルツブルグ——1791・12・5 ウィーン

度重なる旅行によって、ドイツ、オーストリアの地にとまらず、フランス、イギリス、イタリアそのほかの国々におけるさまざまな音楽のスタイルに触れ、多種多様な影響を与えられている。ウィーン前古典派、ミュンヘンそのほか南ドイツの音楽活動、とくにマンハイム楽派のほか、パリやロンドンにおける新しい傾向、さらにイタリア各地における伝統的なスタイルや前古典派的な活動などが、その代表的なものである。さらに幼時から関係がなかったとはいえないパッサなどのバロック音楽やベルリン楽派などの北方の音楽様式の影響も、とくにウィーン時代以後、はなはだ顕著となっていく。しかし、こうした影響だけが、モーツァルトの音楽様式形成の決定的要因と考えることは誤りであろう。以上の諸影響には、さまざまな段階や種類がみられるが、ただたんにある音楽語法の摂取といったものから、ある様式への精神的な同化までが含まれ、モーツァルトの独自の個人様式の確立は、このような影響を通しておこなわれるが、しかし多彩な影響によっていろいろとられた初期の作品ですら、独特な形式的特徴や内包によって同時代の作曲家の作品をはるかにぬきんでいることも多い。モーツァルトの

創作活動は、はなはだ多様で、当時の音楽のジャンルのほとんどすべてをとりあけている。モーツァルトは、生涯のすべての時期にわたって劇音楽の創作にたずさわっている。かれが残したこの種の作品は約20曲で、オペラがほとんどであるが、それもイタリア語をテキストとしたオペラ・セリア、オペラ・ブッフア(喜劇)、ドイツ語によるジングシュピール(歌芝居)などに分けることができる。オペラ・セリアは比較的数量少なく、合計4曲であるが、イタリアで初演された《ルチオ・シラ》(K.V.135)、ミュンヘンで上演された《クレタの王イデメネオ》(K.V.366)、プラハで初演の《皇帝ティトゥスの慈悲》(K.V.621)など、各時期それぞれのスタイルを示しているもの。モーツァルトが得意としたオペラ・ブッフアは7曲。なかでもウィーン時代の3曲《フィガロの結婚》(K.V.492)、《ドン・ジョヴァンニ》(K.V.527)、《ゴシ・ファン・トゥッテ(女はみんなことうしたもの)》(K.V.588)は、古典派オペラの模範的な作例であり、モーツァルトの劇的な表現能力を示すことな実例である。《フィガロの結婚》は、ブッフアの典型でありながら、イタリア的なもののジャンルの水準をはるかに越えている。《ドン・ジョヴァンニ》は有名なドン・ファン伝説にもとづき、主人公の死を結末とする点でオペラ・ブッフアとはことなり、モーツァルト自身も《ドラマ・ジョージ(諸藩劇)》と名づけている。《女はみんなことうしたもの》は登場人物が少なく、アンサンブルの美しさが特徴となっている。レチタティーヴォを用いず、ほかのせりふを伴うジングシュピールも、数は少ないが、12歳の傑作《バステイアンとバステイエンヌ》(K.V.50=K.V.46b)をはじめとして、ウィーン時代初期のみならず《後宮の誘拐》(K.V.384)、そしてたんなるジングシュピールの世界をこえ、ドイツ・オペラの古典を創造し、ロマン派のオペラにも大きな影響を与えた《魔笛》(K.V.620)などがこざれている。とくに《魔笛》には、当時のあらゆるスタイルが総合され、表現内容としてフリーマーソンの思想も考えられる。そのほか、若いころには婚礼を飾る祝劇などの作品、あるいはオラトリオ、学校劇などもある。



■作曲・初演

作曲は1791年春、たぶん5月ごろからシカネターの依頼でとりかかり、7月までに大筆を書きあげたあとに「テイトゥスの慈悲」の仕事がはいり、それを9月6日にプラベで初演の後ウィーンにもどって半月ばかり仕上げにとりかかり、9月28日に完成。9月30日、シカネターの経営するウィーンの下町の民衆劇場（フライハウステアター・アウフ・デア・ヴィーデン）で、作曲家の指揮で初演されている。そして、回を重ねるにつれて評判を高め、翌1792年11月には上演回数100回に達し、財政的に苦境にあったシカネターの立ち直りにも貢献した。

日本人による初演は、1913(大正2)年帝劇歌劇部が6月興行の中幕に約1時間に縮小したものを来日したばかりのローシーの初演出で取り上げている。全曲の初演は、1953(昭和28)年3月28日、日比谷公会堂でグリット・オペラ協会によって行われた。

■あらすじ

ときは古代、ところはエジプトのイージスとオジリスの神殿とその近く。

序曲(変ホ長調、4分の4拍子)は、全管弦楽による3つの力強い和音に開始され、十数小節後にはワーガの形をとった輝かしいソナタ形式の主要アレグロへと突入する。3つの和音は展開部の冒頭でまたくり返されるが、これはフリーメーソンが標榜した「自由・平等・博愛」の3つを象徴したものと解され、劇中の音楽からこの名高い序曲に使われた唯一のものにもなっている。

第一幕の最初の場面は森の入口で、森に迷いこんだ異国の王子タミーノが大蛇に追われて逃げてきて、気を失って倒れる。そこへ現われた夜の女王に仕える3人の侍女たちがその大蛇を殺し、3人もタミーノに魅せられて日々自分がここに残ると言い争うが、結局だれも残るのをやめて3人連れだって夜の女王に報告に向かう(上第1曲・導入部)。そこへ鳥刺しのバババゲーノがパンの笛を吹き、民謡ふうの歌をうたいながら現われる(第2曲、アリア)。正気にもどったタミーノに、大蛇を退治してくれたのはそなたかと聞かれたバババゲーノは、ついそうだとそうをついてしまう。ところへもどってきた3人の侍女たちは、うそをついた前とあるバババゲーノの口に鍵をかけ、タミーノには夜の女王の娘バミーナの絵姿を渡す。

絵姿を見たタミーノは、そこに一目ぼれしてしまい、はげしい思慕の情を歌う(第3曲、アリア)。それを見て侍女たちは、絵姿の主がだれてあるかをタミーノに教え、そしてかの女が今ザラストロとなる者のところに捕えられていると告げる。

雷鳴のとどろきとともに夜の女王の出現となる。そして娘のバミーナをザラストロに奪われた母親の嘆きを述べ、もしもタミーノが救い出すことができたならば、妻として与えることを約し、かれを激励して消える(第4曲、アリア)。

一身を犠牲にしてもバミーナ姫を救い出そうと決意したタミーノに、侍女たちは身を守る魔法の笛を与え、

その供として従うことになったバババゲーノにも、口の鍵をはずしたうえで魔法の鈴を与える。また、3人の童子が現われて、かれらの道案内役をつとめるであろうとも告げる(第5曲、5重唱)。

場面は変って森の奥。ザラストロのもとから逃げだそうとしたバミーナ姫を、膚の色だけでなく腹の中まで真黒なムーア人の奴隷い頭モノスタスが捕えて手ごまかししようとするが、ちょうどそこへバババゲーノが忍び込んできて録合せとなり、おたがいにその異様な風情に驚きあい、バババゲーノはすわりこみ、モノスタスは逃げ出し(第6曲、3重唱)。

気をとり直したバババゲーノは、自分がタミーノとともに娘を救い出しにやってきたことを告げる。それから2人で愛のすばらしさをたたえ、タミーノを探しに出かけることになる(第7曲、2重唱)。

その間タミーノのほうは、侍女たちの予言どおり三人の童子の導きによってザラストロの神殿の前まで来ている。タミーノが門の中にはいるとすると、内から制止の声がかかり、やがて門の中から弁者(原曲第1の唄目)が出てきて、タミーノとの1問1答のうちにザラストロが夜の女王の言うところではだいぶがった人物であるらしいことが明らかにされていく。弁者が去ったあとひとり残されたタミーノは、バミーナの生存を告げる神託の声に力づけられて魔法の笛を吹くと、森の中の動物たちが出てきてその妙なる響きに耳を傾ける。この笛の音はかれを探し求めるバババゲーノとバミーナをも引き寄せるのであるが、その前に奴隷いたちを引き連れたモノスタスに追いつかれてしまい、バミーナがまたつかまってしまう。そこでバババゲーノが魔法の鈴の音を思い出し、それこそで、モノスタスとその手下たちは鈴の音にうかれて踊りだし、バミーナのこともバババゲーノのこともすっかり忘れて踊りながら退場してしまう。ところがヘラッパと太鼓がひびき、合鳴がわきおこってザラストロの1行の登場となる。ザラストロの正体は徳の高い聖者であった。そしてバミーナを邪魔する母親のところからここにかくまっていたことも明らかにする。モノスタスががら顔をしてタミーノを引ったててく

るが、すべてお見通しのザラストロは、モノスタスがパミーナを手ごめにしようとした罰としてむち打ちの刑だという。初めて出会えたタミーノとパミーナは喜びあうが、2人が結ばれるまでにはいくつもの試練を受けなければならぬとザラストロに教えられる(以上第8曲、フィナーレ)。

第2幕はザラストロが会議を開き、他の僧侶たちにタミーノに試練を受けさせることについての賛否を問うているところから始まる(ト書にはヤシの茂る森の中である)。全員それに賛成し、オジリスの神への祈りを捧げる(第9曲、僧侶たちの行進と10曲、合唱つきのアリア)。

タミーノとババゲーノはまず無言の行を課せられる。2人の僧侶(原曲では第2の僧侶と弁者)がかれらをはげまして(第11、2重唱)去ったのと入れかわりに、夜の女王に仕える3人の侍女が現われ、こんどは誘惑にかかるが、意志強固なタミーノにはそのきき目がなく、ババゲーノだけがひっきりそうになる(第12曲、5重唱)。

場面は変って庭園の場となり、月光のもとでパミーナが眠っているところへ、またはモノスタスが忍び寄ってキスをしようとしているところへ(第13曲、アリア)、雷鳴がとどろいて夜の女王が出現し、短剣をパミーナに与えてザラストロを殺すように命じる(第14曲、アリア)。女王が消えると、モノスタスはパミーナの手から短剣を取りあげ、いやらしき言い寄るが、そこへザラストロが登場して追い払う。

ザラストロは、母親を罰しないようにと懇願するパミーナにヒューマニズムを説く(第15曲、アリア)。

ふたたび場面が変って奥の院の大広間でタミーノとババゲーノが第2の試練を受けているところが描かれる。タミーノはあいかわらず無言の行を続けるが、ババゲーノのほうはもう我慢が限界にきている。そこへ老婆が現われてババゲーノとたあいのない対話をかわし、雷鳴とともに老婆が消えたと入れかわりに3人の童子の登場となる。童子たちは魔法の笛と鈴を返しながたど馳走も運んでくる(第16曲、3重唱)。タミーノの吹く笛の音にひかれてパミーナがやってくるが、なおも無言の行を続けるタミーノを自分への冷淡と誤解し、失望落胆する(第17曲、アリア)。

ここでまた場面が変り、神殿の中(ト書によれば地下室)で僧侶たちがイーリスとオジリスの神をたたえているところへ(第18曲、僧侶たちの合唱)、タミーノとパミーナが登場、タミーノはあと2つの危険な試練の前にしてザラストロからはげましのこぼを受け、パミーナに

別れを告げる(第19曲、3重唱)。

かれらが退場したあとへ、ババゲーノがタミーノを探しながら現われ、僧侶(あるいは弁者)から好物の酒を与えられ、1杯きげんで鈴を振り振り歌いだすと(第20曲、アリア)、そこへ例の老婆がまた出てきて結婚を誓わせられる。誓うと同時に老婆は若い女鳥刺しのババゲーノの姿になり、ババゲーノはそれを抱こうとするが、僧侶(あるいは弁者)に制止される。

再度庭園の場面となって、絶望のあまり自殺しようとしたパミーナが3人の童子からタミーノの本心を教えられて気を取り直し、タミーノのもとに2人で最後の水火の試練を受けるべく急ぐ。その試練も、魔法の笛の力を借りて無事に通過する。一方ババゲーノと結ばれるのに待たをかけられたババゲーノのほうは悲しみのあまり首を吊ろうとするが、そこへ3人の童子が現われて教えられるままに魔法の鈴の力を借りてババゲーノを呼び寄せすることに成功、あらゆるオペラの2重唱の中でおそろしく最も天心らん漫な「バババの2重唱」を歌って早くも子供をたくさんつくる相談をしているありさまである。寝がえりを打ったモノスタスが夜の女王の一味を案内してそこへ忍びこみ、クーデターを試みるが失敗に終り、暗黒界に滅び去る。ザラストロが登場し、闇が消えて日が昇り、邪悪は滅びたと告げ、イーリス、オジリスの神を賛える大合唱のうちに幕となる(以上第21曲、フィナーレ)。



指揮
古谷 誠一

東京大学文学部卒業。在学中からオペラ、NHK放送オーケストラ等の指揮、ピアノ伴奏を務める。卒業後、桐朋学園音大で、指揮を小沢征爾、秋山和慶、堤俊作、尾高忠明諸氏にピアノ、理論を故矢代秋雄、三善晃、末吉保雄各氏に師事。日本バレエ協会公演で、ニールセン「不滅」他を指揮してデビュー。イームジチ合奏団の元コンサートマスター、フェリックス・アーヨ氏、ベルリンフィルメンバー等との協奏曲の指揮を務め絶賛される。現在、名古屋芸術大学講師。



演出
植田 志男

東京芸芸大学教育心理学科卒業後、3年間ケルン大学哲学部において心理学を研究。在学中ケルン市立歌劇場専属歌手 故、大橋国一氏との交友のうちにオペラ演出を志す。その後ウィーン大学に移り帰国後、東京二期会に入社し7年間オペラ制作及び栗山昌良氏、浅利慶太氏らの演出助手として数十本のオペラに従事。

自己演出作品としては「カルメン」、「フィガロの結婚」、「魔笛」、「椿姫」他がある。二期会退社後、オペラ普及活動のため同志と青少年オペラ劇場を設立し、主宰者として「魔笛」「サウンド・オブ・ミュージック」、「カルメン」、「トム・ソーヤの冒険」等の制作・演出にあたる。

●ソリスト



ザラストロ
大原正義

国立音楽大学声楽科卒業。井上貞一、益田遙治氏に師事。ペンデレ「メロイヤ」、フォーレ「ルクイエム」、ヘビド「天地創造」オルフ「カルミナブラーナ」にソリストとして出演。「アマールと夜の訪問者」の玉塚役、「海の子守唄」の網元役「ボーギーとベス」のクラウン役で出演。47年リサイタルを聞く。岡大コーロークラス、川崎製鉄水島出音合唱団ヴォイス



弁者
黒岩 悟

東京芸術大学大学院音楽研究科卒業。中山清一、柴田豊徳、ニコラ・ルッチ、木下武久諸氏に師事。40年「フィガロの結婚」のバルトロ、41年「ドン・ジョヴァンニ」のき士長、43年「カルメン」のダンカイト役で出演。岡山に於て、「アマールと夜の訪問者」「雲雀風土記」「海の子守唄」等出演。香川県芸術祭主催、徳島県芸術祭主催のベートーヴェン「第九」ソリス



僧侶Ⅱ
石田 徹

東京芸術大学音楽部声楽科卒業。バシフィック音楽院、大学院留学。高貝実徳、水野雅孝、木下辰、柴田豊徳タダタスの諸氏に師事。昭和40年、41年、44年、46年とドイツ歌曲のリサイタル開催。53年「夢二抒情の夕べ」、56年「夢二歌曲リサイタル」開催。「声楽家のためのイタリア語」、音楽の友社「竹久夢二、歌曲と作曲家研究」等多数の著作、論文を発表。



パミーナ
平本 弘子

広島大学教育学部音楽科卒業。小林春子、千葉佳子、大熊文子の諸氏に師事。55年夏、ルツルン・コンセルト・ワール夏期マインスターコースに参加。日仏歌曲研究会47年「中田喜直の夕」、48年「シェーベルの夕」、49年「園児幼稚園の夕」に出演。49年、54年広島交響楽団ベートーヴェン「第九」のソロ50年モーツァルトのコンサート用アリアのソロ、マラー「子供の

レナー。現在、中国短期大学保育科、音楽科講師。

トとして出演。56年オペラ「ボーギーとベス」のボーギー役を演ずる。現在、中国短期大学音楽科助教。

文を発表。現在、中国短期大学音楽科講師。ノーベルグム清心女子大学非常勤講師。新潟女子短大非常勤講師。日本発声学会会員、日本声学会会員、岡山演楽協会会員。

不思議の角笛」のソリスト51年、55年、56年リサイタルを聞く。オペラ「アマールと夜の訪問者」のアマール役、オペラ「電話」のルシー役、53年「ドンジョヴァンニ」ヴェルリーナ役。54年「酒香一べるとの夕」、49年「園児幼稚園の夕」に出演。49年、54年広島交響楽団ベートーヴェン「第九」のソロに出演。現在、福山市立女子短期大学保育科講師。



タミーノ
日高好一

洗足学園大学声楽科卒業。岡大専攻科修了。島田恒輔、三枝喜美子諸氏に師事。50年東京二期会合唱団に入団。主要ソルバとして、ソロパートを受け持ち、数々の二期会オペラに出演。53年準会員となり、54年二期会合唱団退団と同時に、二期会中・西国支部に移籍。55年関西日伊コンソルトでフェノーラ特賞を受賞。オペラ「海の子守唄」の六郎治役、「カルメン」のド



僧侶Ⅰ
鷹田 義明

東京芸術大学大学院修士課程修了。故藤原高夫、故渡谷敏、柴田陸隆、ニコラ・ルッチの諸氏に師事。東京芸術大学オペラ定期公演「コシファン・トゥッテ」同大オペラ定期公演「修神物語」同大オペラ定期公演「ドレック」横浜カントーレオペラ「魔笛」横浜カントーレオペラ「復讐」二期会中国支部「アマールと夜の訪問者」等に出演。「フィガロの結婚」あま



夜の女王
川村 輝子

大阪音楽大学音楽部卒業。大阪音楽大学専攻科修了。水井和子、田原祥一郎、横田浩和諸氏に師事。オペラ「マルタ」のタイトルロールでデビュー。「アルバート・ヘリング」「こもり」。「魔笛」「鹿神とオールドミス」「小さな煙突掃除屋さん」「ルクリースー」他のオペラに出演。幸楽会コンサートにて大フィルと協演。「第九」「メサイ



侍女Ⅰ
梶川 京子

大阪音楽大学卒業。木村四郎、黒岩悟氏に師事。魔笛ハイライト侍女Ⅰ。毎年ゴールデンコンサート出演。(サマータイム、お蝶夫人「ある晴れた日に」)現在、岡山女子高校教諭。

ン・ホセ、創作オペラ「温羅の箱」の石勝役、広島オペラ「はだしのゲン」の浩二役等を演じる。56年、リサイタル開催。現在、岡山大学教育学部非常勤講師。岡山市民合唱団鷺羽岡大コーロークラス福山混声合唱団ヴォイス・リーダー。

んじやくとうりこ姫」等の指揮を松の合唱指揮活動多数。1978年高松市民会館於バリトリサイタル。現在、香川大学助教授。中国短期大学音楽科非常勤講師。

了」等オラトリオのソリスト二期会ゴールデンコンサート他各種演奏会に出演。関西二期会会員。



侍女II
古賀 照子

大阪芸術大学音楽学部声楽専攻卒業。大原正義、加納純子、松本寛子、佐々木英代氏に師事。53年大阪芸大卒業演奏会、岡山県新人演奏会。54年「日本のしらべ」『倉敷音協定演』55年「ムジカ・ドンネ『日本のうた』、『ドン・ジョバンニ』のドラペラ役。56年「日本のしらべ」ムジカ・ド

ンネ、「ヘンゼルとグレーテル」に出演。現在 市立玉島高校音楽非常勤講師。倉敷音楽協会会員。近代日本音楽研究会員。



パバケーノ
秋山 啓

島根大学教育学部特設音楽課程卒業。岡大音楽科修了。森山俊雄、黒岩信、吉田功の諸氏に師事。津山音楽研究会定期演奏会に第1回より毎年出演し、パハのコンサート、シュベールの歌曲由童謡、孤々踏など演奏。55年河山にてジョイントリサイタルを聞く。現在、岡山女子短期大学幼児教育学科講師。



モノスタス
里井 宏次

大阪音楽大学学部声楽科卒業。同大学院オペラ科修了。安則雄馬、ニコラウッチ、田原祥一郎、武田哲宇諸氏に師事。大学オペラ「カルメン」のドン・ホセ「魔笛」武士他のおペラを演じ「アンドレア・シュニエ」のジュニエで修了。イタリアの歌曲オペラ・アリア、ドイツリートの夕べ、などの数多くの演奏会に出演、室内オペラな

ども出演。二期会のオペラでは「ウインザーの陽気な女房たち」のフェントン、「魔笛」の武士「おこんじり」のごんすげにも出演している。現在、関西二期会会員、√大阪会員、大阪音楽大学講師。



童子II
西 郷 子

東京音楽大学声楽科卒業。矢部礼子、佐々木英代、加納純子諸氏に師事。54年岡山県新人演奏会。55年「ホーヴェール・レコンサート」第5回ムジカドンネ「はんにうた」、二期会オペラアンサンブルの夕べ、56年第4回「日本のしらべ」、第6回ムジカドンネオペラ「ヘンゼルとグレーテル」のヘンゼル役等に出演。現在、近代日本音楽研

究会会員、県立邑久高等学校、備前東高等学校非常勤講師。



侍女III
虫 明 和 子

京都市立芸術大学音楽学部声楽科卒業。金光武義、矢部礼子、井上敦子、島井晴子、佐々木成子、河本嘉介の諸氏に師事。47年「蝶々夫人」の蝶々夫人、49年ジョイントリサイタル「フィガロの結婚」の伯爵夫人、50年「アマルと夜の訪問者」の母親、フランス音楽コンクール日仏協会賞受賞、51年「ドン・ジョヴァンニ」のドンナ・エルヴィラ、「カルミナブー

ナ」ソリスト、53年から54年はフランスに留学、55年「カルメン」のカルメン、創作オペラ「温帯の船」の乳母、56年リサイタル。現在、山陽女子高等学校音楽科講師、中国短期大学音楽科非常勤講師。



パバケーナ
岡崎 順子

岡山大学教育学部音楽専攻卒業。愛知県立芸術大学大学院音楽研究科修了。矢部礼子、小島塚穂、木下武夫の諸氏に師事。アマル・ソール・フェール・ソール・ソール音楽大夏期ミニナールを受賞。リタ・シュエライヒに師事。二期会中・四国支部オペラでは、アマルと「夜の訪問者」の「アマル」、「ドン・ジョバンニ」のフェルリーナ、「魔笛」のパバケーナ、「ドン・ジョバンニ」のドンナ・エルヴィラ、「海の子守唄」

のし、「カルメン」のミカエラ役で出演。また、大原恕一郎指揮演奏会においてモーヴェルト「レクイエム」のソプラノ・ソロ、セフィール室内合奏定期演奏会で、パハ「結婚カンタータ消えよ悲しみの影」、等を歌う。56年、新見に於いてリサイタルを開く。現在、新見女子短期大学幼児教育学部助手、岡山演奏家協会会員、岡山市民合唱団「聲羽」ヴォイス・トレーナー。



童子I
高橋 真砂子

愛知県立芸術大学声楽科卒業。矢部礼子、小島塚穂諸氏に師事。同大学定期演奏会、卒業演奏会に出演。昭和56年中・野村美穂氏に師事。岡山県新人演奏会出演。現在、電報中学校教諭。



童子III
西 容 子

中国短期大学音楽科卒業。同大学専攻科卒業。同大学聴講生修了。近藤安个、中野静美諸氏に師事。音楽科第14回定期演奏会出演。昭和65年岡山新人演奏会、55年中・四国新人演奏会に出演。

●倉敷室内管弦楽団 ●二期会中・四国支部合唱団

文化都市倉敷にふさわしいユニークな楽団として、昭和49年12月に誕生した倉敷室内管弦楽団は、古典を中心にバロックから現代曲まで幅広い演奏活動を岡山県を代表する楽団に成長しました。

発足以来、美しい音色と高度な技術には定評があり、昭和52年にはフルートの巨匠ジャン・ピエール・ランバル氏との共演を始め、ヴァイオリンの和波孝壽氏、ピアノの深沢亮子氏、チェロの安田謙一郎氏、オーボエのティエールム・ヨナス氏等との共演や昭和55年には團伊玖磨氏作曲の「管弦楽の為の高梁川」の初演発表会の成功など着実な活動を続けています。

なお昭和56年度は(6月9日)第7回定期演奏会「ベートーヴェン交響曲第7番」他。(9月23日)ゴールドアフレンドコンサート「レスピーギ・ロマの松」他。(10月28日)山陽コンサートホール「マッハ二つのヴァイオリンの為の協奏曲」(11月7日)倉敷音楽協会10周年記念演奏会「グリーグピアノ協奏曲」他。今回の「モーツァルト魔笛」と多彩なプログラムを消化しています。

1st Vn	菊池 東 中桐佐知子 陶山 容良 稲田真理 西崎由美子 三崎めぐみ	佐藤真真理 池上俊昭 吉信雅庸 赤沢和美 野田裕子 吉田精一	高橋 久子 浅井直樹 橋詰万里子 三村卓司 黒住晃代
2nd Vn	黒住彰夫 武本克己 西田毅雄 津下典子	中野隆重 吉田典子 田辺幹夫 中野啓子	友野良一 折山敦吾 光延勢秀
Va	松本高広	安田友子	大熊桂子
Cello	古川兼生	坂口充倫	
F1	有道 惇	井上 範	
Ob	高杉玲子	川名光治	
Fg	稲田裕彦	原田克也	
Hr	吉市幹雄	西崎大修	
Tp	石原 憲	森田裕三	
Tb	佐藤道郎	佐藤正俊	谷口一夫
Tim	陶山京子		
P.f	北迫ひとみ		



合唱指揮
上月 明

岡山大学教育学部音楽専修課程卒業。昭和48年、岡山大学教育学専攻科(音楽専攻)を修了。作曲を菱川欣三郎氏に師事。女声合唱組曲「母と子の語らひ」、童声児童叙情小曲集、男声合唱組曲「智恵子抄」、同、「ことばあそび歌」、ソプラノと男声合唱のための曲集「月曜日の詩集」等の作品がある。現在、岡山大学教育学部附属小学校勤務。岡山市民合唱団管弦指揮者。岡山大学男声合唱団コールリーダーズ常任指揮者。

●二期会中・四国支部合唱団

Sop	秋山由美子 有安智子 小坂佐六 佐谷浩 藤戸高幸 信時 恵	福村森山 村上美由 山下真由 山本康早 吉貞美	穂和子 美孝子 孝和子 美妙子 由美代 康英 穂早穂
Alt	石本幸子 出原去子 院梅田浩 梅田志由 岡保富美 嘉北野綾	高川充 谷美登 新納記 花岡智 半田容 藤本津	子里子 登子 記子 智子 容子 津子
Tenor	鈴木研司 青木木子 尾崎勝博 佃数志 松原浩也 吉原田和 竹野田長俊	森川隆 井上隆 久三史 久三史 久三史 山小正 山小正	司透史 史史史 史史史 史史史 史史史 史史史 史史史

Bass	小田牧孝至 田中野良男 狩野文秀 斎藤本恒 橋本	至明和 男相和 野秀恒 文秀恒 本恒	山田下惠介 岡子岸義也 角南河治 十雨茂之 樹	森福孝幸 渡辺田和 三浦秀 三浦秀	信澤洋樹
------	--------------------------------------	--------------------------------	-------------------------------------	----------------------------	------

●関係ピアニスト



菊地 桂子

愛知県立芸術大学音楽学部ピアノ専攻卒業。
ピアノを鈴木厚子、大出孝祐、宮原幹子、田端三恵子の諸氏に師事。現在、中国短期大学音楽科助手。岡山演奏家協会会員。



北迫ひとみ

順天堂大学音楽学部演奏学科ピアノ専攻卒業。
ピアノを内田勝子、小島華子、若崎淑の諸氏に師事。現在、中国短期大学音楽科助手。

●二期会中・四国支部のあゆみ

- 昭和48年 7月 支部設立 会員6名。オーディションにより新会員10名、準会員8名、総勢24名により発足。
- 10月 設立記念演奏会 岡山三木記念ホール
- 昭和49年 4月 49年度会員準会員募集、10名応募中会員2名、準会員1名合格入会。
- 5月 研究生制度発足 第一期生17名、予科入学
- 7月 高松演奏会 高松農協会館
- 昭和50年 3月 研究生修了演奏会 岡山文化センター
- 5月 50年度会員準会員募集、12名応募中会員2名、準会員2名合格入会
- 第二期研究生10名入学
- 7月 “歌曲の夕べ”岡山文化センター
“モーツァルトの作品によるサマーコンサート”
高松農協会館
- 10月 オペラ公演 “炭焼姫”“アマールと夜の訪問者”
(井原9日、岡山10日)
- 昭和51年 3月 研究生修了演奏会
- 4月 51年度会員募集、11名応募中会員3名、準会員4名合格
- 第三期研究生7名応募中6名合格
- 9月 二期会コンサート(香川会室)
創作オペラ “あまんじやくとうりこ姫”
高松市民会館
- 10月 演奏会形式によるオペラ “ドン・ジョヴァンニ”
(岡山市民文化ホール)
- 12月 第1回ゴールデンコンサート 岡山市民文化ホール
- 昭和52年 3月 第三期研究生卒業演奏会
- 4月 52年度会員募集(18名応募、11名合格)
- 10月 新人紹介演奏会
- 11月 二期会オペラコンサート(高松19日・観音寺20日)
- 12月 第2回ゴールデンコンサート 岡山市民文化ホール
- 昭和53年 9月 二期会オペラ公演 “泥棒とオールドミス”
“人買太郎兵衛”(高松7日・丸亀9日・観音寺10日)
- 10月 モーツァルト 三大オペラハイライト “フィガロの結婚”
“ドン・ジョヴァンニ” “魔笛”(岡山市民会館30日)
- 12月 第3回ゴールデンコンサート
(岡山市立市民文化ホール 23日)

- 昭和54年 9月 54年度会員募集
(11名応募、会員1名、準会員5名合格)
- 10月 オペラ「海の子守唄」公演(岡山市民会館11日)
- 12月 オペラ「炭焼姫」オペラ「アメリカ舞踏会へ行く」
(15日観音寺市民会館、16日丸亀市民会館、17日・18日高松市民会館)
- 第4回ゴールデンコンサート
(岡山市立市民文化ホール 22日)
- 昭和55年 4月 55年度会員募集
(15名応募、会員2名、準会員4名合格)
- 10月 二期会オペラアンサンブルの夕べ「コシ・ファン・トゥッチ」「カルメン」(岡山市民会館3日)
- 10月 あなたのオペラわたしのオペラ「オペラハイライト」
「スザンナの秘密」
(高松14日・丸亀25日・観音寺26日・普通寺27日)
- 12月 第5回ゴールデン・コンサート
(岡山市立市民文化ホール 20日)
- 昭和56年 3月 56年度会員募集
(16名応募、会員1名、準会員8名合格)
- 8月 中山梯一リード研究会
(岡山大学教育学部音楽教室ホール)
- 11月 オペラ「フィガロの結婚」
(高松市民会館 19日、25日)

●二期会中・四国支部名簿

顧問 川崎静子
 糸賀英憲
 委員長 近藤安个
 副委員長 鷹田義明
 吉田易正
 委員 黒岩悟
 竹内肇
 大原正義
 玉置忠徳
 岡崎順子
 平本弘子
 虫明和子

ソプラノ

正会員 後関睦子(岡山)在伊
 " 佐々木英代(岡山)
 " 野崎幹子(岡山)在独
 " 中田ちほ子(広島)在独
 " 虫明和子(岡山)
 " 向原佳代(高知)
 " 池本洋子(香川)
 " 竹内久美子(香川)
 " 浜崎明美(岡山)
 " 山下敬子(香川)
 " 平本弘子(広島)
 " 藤原フサエ(香川)
 " 岡崎順子(岡山)
 " 荻岡美津栄(岡山)
 准会員 稲岡美代子(岡山)
 " 多田美子(香川)
 " 小林寛子(岡山)
 " 川上なおみ(大阪)
 " 稲見仁江(兵庫)

" 堀川英子(香川)
 " 菊池由美子(岡山)
 " 竹内恵子(香川)
 " 朝比奈由美子(広島)
 " 梶川良子(岡山)
 " 宗盛ユキミ(広島)
 " 山本恵美(岡山)在来
 " 久保尚美(香川)
 " 高橋真砂子(岡山)
 " 日野直子(広島)
 " 近藤薫(香川)
 " 山脇恵子(広島)
 " 畑井知加代(広島)
 " 藤本ひろ子(広島)
 " 松本博子(山口)
 " 古賀照子(岡山)
 " 松下小夜子(香川)
 " 坂井季子(香川)
 " 森下美喜子(岡山)

メソソプラノ・アルト

正会員 津島美里(香川)
 准会員 渡辺和枝(岡山)
 " 矢内淑子(岡山)
 " 上田弥生(岡山)
 " 浦生房子(香川)
 " 西郷子(岡山)
 " 川崎ちえみ(香川)
 " 西谷容子(岡山)

テノール

正会員 石田徹(岡山)
 " 近藤安个(岡山)

" 日高好一(広島)
 准会員 平光康(広島)
 " 木村明昭(香川)
 " 八木正彦(香川)在伊
 " 葦山益夫(香川)

バリトン

正会員 大原正義(岡山)
 " 黒岩悟(岡山)
 " 竹内肇(香川)
 " 鷹田義明(香川)
 " 吉田易正(岡山)
 " 玉置忠徳(香川)
 " 荒木正海(香川)
 " 阿部信行(愛媛)
 " 堀川正彦(香川)
 准会員 岡三雅(香川)

バス

正会員 菅谷省三(岡山)
 准会員 秋山啓(岡山)

関係ピアニスト

森田美智子(岡山)
 玉置奈々子(香川)
 北迫ひとみ(岡山)
 森あおい(岡山)
 菊地桂子(岡山)
 山本祐充枝(岡山)
 三村俊子(岡山)
 米山千晴(広島)
 谷口泰子(香川)